

会議名	令和6年度第1回愛荘町公共施設マネジメント推進委員会
開催日時	令和6年8月9日（金） 午後2時00分～午後3時30分
開催場所	愛知川庁舎 3階 第2委員会室
出席者	<p>【委員】7人 西田委員、持田委員、西川委員（企画政策監）、生駒委員（総務政策監）、木村委員（福祉政策監）、北川委員（産業政策監）、陌間委員（教育次長）</p> <p>【事務局】2人 公共施設最適配置推進室 久保川室長、南部主任</p> <p>【行政関係者】1人 建設・下水道課 中村課長補佐</p>
欠席者	0人
公開・非公開の別	公開
議題	<p>愛荘町公共施設マネジメント推進委員会設置要綱について 委員長・副委員長の選任 情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛荘町公共施設の状況について</li> <li>・ランドデザイン2040について</li> <li>・都市計画マスタープランについて</li> </ul> <p>委員会の進め方について</p>
傍聴者の数	3人
審議内容	別紙のとおり
問い合わせ先	<p>所属名 : 経営戦略課公共施設最適配置推進室 電話番号 : 0749-42-7680 メールアドレス : keiei@town.aisho.lg.jp</p>

(1) 事務局あいさつ

(2) 委員自己紹介

(3) 愛荘町公共施設マネジメント推進委員会設置要綱について

(事務局より説明)

(4) 委員長・副委員長の選任

委員長に西田委員、副委員長に生駒政策監を選任。

(5) 情報共有：愛荘町公共施設の状況について

(事務局より説明)

(6) 情報共有：グランドデザイン 2040 について

(企画政策監より説明)

(7) 情報共有：都市計画マスタープランについて

(産業政策監より説明)

(持田委員) 鉄骨造で2000年以前に建築されたものについて、アスベストの有無が処理費に影響しますので、できるだけ負担がないような対応の仕方、処理の仕方、そういったことを踏まえて計画の中に入れていったほうが良いというのはひとつありますね。

(持田委員) 体育館等では、地震のときに天井が壊れて使えない状況になることがあるため、天井の耐震診断や耐震補強の状況を明らかにしたほうが良いです。柱等の構造体は耐震補強されていても天井はされていない施設、あるいは天井があるものは改修にもお金がかかるので解体の候補に優先して入れていくこともあろうかと思えます。

(持田委員) 災害のリスクマップに液状化も加えていただいて、できる限りそのような場所に人を集めないような取組をしていることを示すことも大事かと思えます。熊本地震でも、景色がいたので住宅が集まっていて、実はそこが断層だったという例もあります。液状化を止めるといっても、その宅地に非常にお金がかかったり、個人で住宅に対策するとしても十分にできなかつたりするかと思えます。

県でハザードがあったので、ああいうものは入れたほうが良いかと思います。

(持田委員) 公共施設の一覧表を見ていると、鉄骨造の古いものはできるだけ除外する形で動かれているのかなど、それはいいと思うのですが、調べるとアスベストが出てくるのが大体2000年以前に建てられたものです。そこはコストがどんどん上がっていきますので、あまり持たないようにしたいですね。

(西田委員) 先ほど現地を拝見しましたが、アスベストも基本的なところは処理されていると。それから天井について、愛知川の体育館は既に雨漏りが一部あって、これはちょっと危ないなというのは見たところでもあるので、早めに方向を決めて対応が必要だと思います。

(西田委員) 災害については立地適正化計画の中でも議論がありました。愛知川の都市機能誘導区域、住宅機能のところもそうですが、浸水エリアに一部かかるんですね。幸い、浸水深が3m未満で、垂直避難で行けるくらいのエリアなので、きちんと住民の方にハザードの説明をしておけば大丈夫なのかなというのが、まさに都市計画審議会でも議論があったところです。

(西田委員) 街道筋沿いで農業を中心に発展している市街地は全部こうなので、これを避けて都市計画を打っていくのは現実ではないというのは国でも認めていまして、特に農地の場合はどうしても水を引けるところに住宅を置くという構造的な問題があって、そのような話は昔からありました。ただ、代表公共施設というのは災害時に避難先として指定されることが多いので、明らかに1階で浸水するところの施設を維持していくというのはいろんな意味で勿体ないことかなという気がします。愛知川エリアについてはこういうことを注意する必要があるかなという気がしました。

(持田委員) 先ほどの鉄骨の体育館の話ですが、最近の地震の被害状況では、耐震補強されていても震度6強から震度7の地震だと継続使用できないくらい壊れているので、耐震補強されているから古い建物でも安心して継続使用できるものではないということは前提に考えていかなければならないですね。古い建物であれば、被災時に分散して避難できるようにいくつか残すという前提になるし、あまりにも大きな地震が来て全部施設が壊れてしまったときに、もしかしたら一つはしっかりした施設がいるという論議はあるのかもしれないですね。

(持田委員) あとひとつ、バリアフリー化が論点の中にあって、一般的な体育館施設で、被災した人がそこでトイレに行ったときに高齢者がトイレに行けないとか、行きにくいとかいう状況について、そういった視点で施設を見ておく必要があるか

なと思います。

(西田委員) 先ほど現場を見ましたが、やはり和式のトイレが多く、洋式の便座も入れておられますが、高齢者の方が使うのは大変でしょうね。愛知川のほうは解体の方針を出しておられるのですが、逆に移転や再整備するときに、どこでどうするかということについては今の視点がとても重要です。

(持田委員) 高齢者の方が自宅の近くに避難されるので、そういう方を対象に考えていかなければなりません。若い人はもしかしたら離れたところへ自分で避難されるかもしれませんが、高齢者の方はなかなか動きたくないというのが多いと思うので、対応が必要かなと。

#### (8) 委員会の進め方について

(事務局より説明)

(西田委員) 高齢化について、愛荘町は滋賀県のなかでも比較的ゆっくりとした速度で進んでいるとはいえ、これから大きな問題になり扶助費等がどんどん増えていく中で税収のほうは伸びるどころか逆に厳しくなっていくと。総論としては、現在の公共施設を今のまま全て移転、改築、創設することは難しく、絞り込みが必要だということはこの資料の通りで、ほぼ総論としてはもうこの方向でないに進んでいけないだろうということは、合意がとれておられるところだと思います。ただ、難しいのは、各論としてどの施設をどの順番で撤去あるいは移転をしていくのか、廃止をするのか。これは議員の方々からしても、地元からのご意見、やはり厳しいものもあるでしょうし、各施設を運営されているところでも、町全体で一つに絞り込むということになると、今利用されている方からかなり厳しい声が上がってくると思うので、各論としてこれをどう詰めていくかだと思います。

(持田委員) 長寿命化計画の中で、費用を1割削減という位置づけが、町としてこれでいいのか、もっとしないといけないのか、人口の減り方のカーブとこの割合がおそらく関連性が出てくると思うのですが。この1割というのはもしかしたらもっと減らさないといけなくなるという可能性も高いですよ。そうすると、そういったものに対応できる案をいくつか考えていくことも大事なのかなということと、この1割削減する方法の取り組みのポイントになる項目のようなものを、公の場でオープンにしていって、いろんな方のアイデアをもらってみるということも必要なのかなと思います。長寿命化については、改修する中で、建物

が再現できるかどうかということが一つポイントになってくると思います。是正させるときにどれぐらい戻すかというところで、より効率的な補強方法に対応できるかということですね。それは何かどこかで入手して、今の計画に入れているのでしょうか。

(事務局) 今の計画は所管課が上げてきた方針をそのまま反映した形になりますので、施設が長寿命化に適しているかどうかという検査までは行えていない状況です。

(持田委員) それをしないといけないと思います。劣化してきたものをまた元に戻すという、この工法でより安いものが見つればずいぶん変わってくるかと思います。ここまではまだ考えていないということなので、これからどういうふうにするかということですね。

(西川委員) 人口減少は必至であり、子どもの数も減っていく。そういったところで、真に必要な規模の施設はどれくらいなのかというところが把握しきれていないと思います。その適切な規模の測り方が非常に難しいのかなというところですね。あとは、コンパクトプラスネットワークという視点で拠点と副次拠点というものを用意した中で、そこにどう集約するかということも非常にポイントになってくるのかなと。施設をわざわざ直したけれども利用者がいないという費用対効果を得られない計画ではまずいなということも含めると、やはりある程度位置的な集約をしていく必要があると考えます。その地域の方々はどう理解していただくかということも非常に難しいところですね。やはり都市計画と人口動態が非常にこの公共施設には関連が深いものと感じておりますので、どのように効果的な、費用対効果に応じた施設作りをしていくのかというのはもう少し議論が必要なのかなというふうに思います。

(生駒委員) これまで、具体的方針が概ねそれぞれ決まっているものと決まっていないもの、その中で行政施設と教育施設に分けて、行政施設の中で9施設は具体的方針が決まっていないということで進めさせていただいて、今残りの教育委員会関係の体育施設とかそういった部分を今後展開していきたいというところで、今回、一覧表の丸印の施設も含めて検討いただきたいというところがあります。ただ原点に戻るといってもやはり大事です。長寿命化について、施設それぞれの築年数に比べてどのような状況にあるのかという程度がしっかりと調べられてないところもあり、そういったところも重要かなというふうに思いますし、人口、地域、利用の状況等、多角的な状況から総合的に見るという視点も踏まえてご議論いただくとありがたいなという風に思っています。

(木村委員) 総論はみんな賛成されますが、具体的な各論になると、やはりそれはという意

見を目の当たりにしています。当委員会で大枠や方向性を決めていくことはとても大事なことだと思いますが、そこには住民さん、そこで生活されている人がいらっしゃるのです、そういう方々の思いも組み込んでいかないと、いざ実施するとなったときに勝手にやったとかいう話になると思うので、絶対折れない芯、これは絶対しなければならないということはここで議論をすべきだと思いますが、どのように住民さんや議員の方々にも理解していただくかということも私達の役割なのかなと思いながら聞かせていただきました。

(北川委員) 都市計画マスタープランの住民アンケートの中で、コンパクトなまち作りの必要性に肯定的な方が8割以上というようなところですが、実際それをしていこうとすると、やはり今まであったものがなくなり利便性が落ちるとなればそうはいかず、アンケート調査との乖離も出てくるのかなというようなところを感じています。財政的な問題から、いくらでも施設の改修や長寿命化にお金をつぎ込むようにはならないので、やはり住民のニーズに合わせて、その施設は長寿命化する必要があるのかということも突っ込んでやっていかなければならないと思っておりますし、そういった意見も発していかなければいけないというようなところで、非常に難しいなと思いながら初めてのこの会議参加をさせていただきましたが、やはり今後は、思い切ってやめるものはやめる、それは事業にしてもそうですし建物もそうだと思いますが、そのニーズを把握しながらやらなければならないと思っていますところでは。

(陌間委員) そもそもこの1割縮減という設定が、果たしてわが町としてそれがいいのかどうかというところは確かに、一度考えていく必要はあるのかなというふうに思います。教育施設の方は学校施設などの長寿命化計画に基づいて順次させていただいているので、そういった施設を長く活用しながら、今あるものがもし縮小できるのであれば、例えば体育館であるとか学校の教室もこれからおそらく空き教室等が出てくると思いますので、できるだけ地域の方に急激にご迷惑がかからないようにと考えると学校は小学校区に必ず一つはあるということになりますので、そういったものも活用しながら、他の施設をもしそちらに移行しながらうまく使っていくようであれば、町全体としての施設を提案していく中で一つの拠り所と言いますか、ある一定減らしながらも、今の時代に合うようなものをいくつか作っていくということがひょっとしたら必要なのかもわかりませんし、そのあたりも含めて委員会のなかで議論させていただければいいかなと思います。

(西田委員) 今回の委員会は、コンサルタントを入れずに事務局2人でいろんな作業を組み立てながらされると。各論に落としていくには、本当は予算をつけてお手伝い

いただける体制を組んだ方がいいという議論が出るかもしれないなと思いつながら、まずは今年度この形で進められるということで、それも念頭に置きながら会議を進めていきたいと思つます。

(西田委員) いただきましたご意見の中で、一つは施設そのものの老朽度とか、もう正直この体育館なんか見ていると、使っていること自体が結構危険な状況に近い、現場のお話を聞いても、かなり古くなつているので、窓に上がつて窓を開けようとすると、手すり外れて落ちないか心配だとかそれぐらい危ない感じもありますし、それから照明の方も水銀を使つておられるんですよね。それがいくつ切れると、照明が暗いということで事故が起こることもあり得ます。かといつて今LEDにされるのは多分ない話だと思つるので、そういうことを考えると早めに結論を出して、危険な施設を危険なままを使うことの方がよっぽど意思決定を遅らせていることによるリスクが大きいと思つますので、早めに結論を出すということは一つこの委員会としてやるべきことなのかなというふうに感じました。

(西田委員) それからもう一つは、施設の需要と供給のバランスはどうかというお話がありましたね。これからあまりお子さんは増えていかないし、逆に高齢者向けのニーズはどんどん増えていくということをお考えたときに、今の施設の利用状況、将来予測はともかくとして、少なくとも今のどれぐらいの使われ方でどういった層が使われているのかという情報をもとに、今の需要と供給あるいはB/C※(ビーバイシー)の話一度しないといけないのかなという気がいたしました。例えば、平日と休日の利用がどうで、どういう年齢層の方が使つておられて、傾向としてはどういうふうに変つているのか、そういったところを資料としてまとめていただいて、ここの体育館・武道館は古いから早く何とかしないといけないという議論がある中で、それでも使つておられる方がどれぐらい、どういう状況にあるのか見ておかないと、ご意見いただいた通り、住民の方からすると納得できる話はないということに多分なると思つますので、この部分はどうするかについてご検討いただけたらと思つます。

(西田委員) 大切なのは、総論は賛成だけれども各論反対ということになつたときに、総論の骨がしっかりしていることです。本当にどれぐらいの施設をこれからの税収見込みの中で維持していけるのかと。これは危機感を住民の方に共有していただかないとスタートが切れないところだと思つますので、これから5年10年15年と使つていく施設については、財政上の負担から考えてもこれぐらいの投資を削減していかないといけない、新設あるいはそういったことを考えるにしても、投資余力はこれぐらいの中で計画しなくてはいけない、これらをわか

りやすく説明されていく必要があると思います。今日お示しいただいた管理計画のポイントを住民の方向けにわかりやすい、住民の方というか議員の先生方にまずはご理解いただいて、そこで合意を得ることが必要だと思うんですけども、そういうプロセスを順に踏んでいく必要があるかなということを感じました。

(持田委員) 長寿命化計画というと、長寿命化しないといけないかと言えばそればかりではなくて、やはりニーズの変化があれば、プレハブを短期に使っていくという考え方を入れている行政もあるので、これだけ変化があってそれでハードをどんどん作るというのなかなか対応できないと思います。そういうときにそういう考え方を町民の方にも理解していただく必要もあるのではないかなと。

#### (9) 次回の開催日について

■次回開催日 令和6年11月を予定

※B/C (ビーバイシー) : 「Benefit by Cost」。費用便益比。

B/C > 1.0 の場合は、便益が費用を上回る。